

活動状況報告（10月）

文化芸術コース 4期生 北浦 由花里

10月になり、ついに私の留学生活最後の月になってしまいました。そして、最後の締めくくりとして、大学院の修了試験がありました。結論からお伝えすると、全ての試験をクリアし、無事卒業することができました。

10月の活動内容としては、この試験のために、レッスンを受けたり、ピアノや口述試験の練習をずっとしていました。そして、師事している先生が、ピアノのレッスンの補講をしてくださったり、口述試験の対策を一緒にしてくださったりと、最後まで様々なことを学ぶことができました。

10月29日、ポーランドでの最後の本番として、修士課程の卒業試験が行われました。朝10時から始まり、90分間のピアノ演奏を行い、その直後に口述試験を受けました。体力的にも精神的にも本当にハードな1日だったと思います。90分のピアノの試験は、二部構成にし、それぞれ50分と40分間の時間配分で演奏しました。全てポーランドの作曲家の作品で構成しました。F. ショパンの前の時期、つまり初期ロマン派から現代曲に至るまで幅広く演奏したと思います。学生最後の本番ということで、自分の勉強したかった作品や、大好きな作品をたくさん詰め込みました。しかし実際に本番で演奏してみると、精神的にも肉体的にもハードな大変なプログラムでした。これまで過去に長いプログラムでのリサイタルも経験しましたが、作品の選曲というプログラムの構成もしっかり行わなければならないと思いました。今後、日本に帰国したら札幌を中心として北海道で演奏活動をしたいと考えております。リサイタルを行う際には、今回の反省を生かし、演奏する順番、曲の難易度や規模などを考慮しながら演奏会を構成していきたいと思います。

先生方からのピアノの試験の講評としては、小さな音を美しく演奏していたが、後半になるにつれ左手のパワー（低音の厚み）を失った、と仰っていました。プログラムに後半に、エネルギッシュな作品を並べていたので、低音にエネルギーが消えたことで寂しい印象になっていたと思います。ただ、（コントロールしやすいピアノだったということにも助けられ）弱音は集中して美しい音で演奏できたと思います。

ピアノの試験が終わり、口述試験では様々な質問をされました。私は「ポーランド作曲家の作品によるピアノポロネーズ」という題で論文を書いたので、その内容に関する質問がされました。この内容の他に、「オペラで登場するポロネーズを知っているか」といった質問や、「近年ショパン以外の作曲家が日本で認知されるようになってきたのは、どのようなことが原因として挙げられるか？」等、様々なことを聞かれましたが、準備をしていたので、焦ることなく落ち着いて答えることができました。最後に論文についての感想が述べられ、よく書けていたという講評をいただき、良い評価を得ました。

大学院を卒業し、日本に帰国しましたら、札幌でピアノを教えながら演奏活動をしていきます。学生の時とは異なり、練習できる時間は減ると思います。「これから学生という身分ではなくなるが、ピアノから離れず、時間を見つけてこれからもピアノを弾き続けなさい」と最後に先生から言葉を掛けていただきました。この留学生活で学んだことを生かし、また気持ちを新たに頑張っていきたいと思います。

留学について少しでも希望のある北海道の皆様。どうか迷わず、世界に飛び出してみてください。辛いこともたくさんありますが、自分の人生が大きく変わるチャンスです。そして、このような奨学金をいただくことができ、不自由なく留学生活を送ることができます。一緒に北海道を盛り上げていきませんか。

最後に、これまで応援してくださり誠にありがとうございました。この留学生活は、これまでの人生の中で間違いなく一番充実した時間で、一生の財産となりました。皆様がいただいたご支援を、私の今後の活動を通して必ず北海道に還元していきます。今後とも温かいご声援をお願いいたします。